

平成26年度 東蒲原郡算数部 活動報告

部長 笠間 浩介

1 研究主題 自分の考えをもち意欲的に表現する児童の育成

2 研究の概要

- 第1回 ; 活動計画立案
第2回 ; 算数科学力育成に関わる講話
・講師 津川小学校長 橋谷田裕治 様
第3回 ; 研究主題に関わる実践の情報交換会
第4回 ; 授業研究に関わる指導案検討会
第5回 ; 授業研究会
・授業者 阿賀町立三郷小学校 伊藤 睦美 教諭
・指導者 阿賀町学習指導センター指導主事 長谷川 秀夫 様

3 研究の実際

(1) 算数科学力育成に関わる講話

算数授業で、子どもが意欲的に学ぶための工夫や授業の改善点を中心にご指導をいただいた。具体的な手作り教材の紹介もしていただいた。中でも、田植え機械で使うプラスチック製の稲の苗床に竹ひご等を通してゴムで囲むことによって、いろいろな形の四角形や三角形が作れる教材は、安価で大変有効でありすぐに活用できるものであった。講話を通して、児童の学力向上へ必要な視点について、部員一同が理解を深めることができた。

(2) 各校研究主題に関わる実践の情報交換会

各部員の所属校が類似したテーマで校内研究を進めていて、部内での情報交換においては各校の研究内容と関連したものが多かった。例えば、課題解決時の小グループでの効果的な話し合いや、全体検討のあり方などが中心的な話題になった。これらは各校でのその後の実践に直結するものとなり、非常に有意義であった。

(3) 授業研究協議会

第4学年算数科 単元名「がい数」

本時のねらいは「商品の値段を概数にして計算し、予算内に入るかおおよその費用を見積もるなど見通しを持つことができる」、「自分の考えを図や言葉で友達と伝え合う」の2点であった。課題は「遠足のおやつを500円以内で買うためには、どうやって計算すればよいか」である。

子どもたちは、5種類のお菓子の中から四捨五入したり、切り上げたりしながら自力で考えをまとめていった。そして、自分のホワイトボードに書いていた考えを発表した。

協議会では、以下の点がポイントとして挙げられた。

- ① 本時のように概数を活用させるには、切り上げの考えが安全だが、四捨五入も導入することによって、ぎりぎりに近い金額を考えることもできること
- ② 児童の机と同じサイズのホワイトボードは、子どもの考えをまとめ発表させるのに有効
- ③ 全体の話し合いでは、取り上げた考えが多いと比較・検討するのに視点が設けにくくなること

4 成果と課題

今年度は、上に挙げた3点を柱にした研究を進めることにより、参加した部員一人一人が、部会の成果をそれぞれの所属校に持ち帰り、児童の課題解決力や表現力等、算数科学力向上に向けて実践を重ねることができた。

今後は、一層の算数科学力向上を目指して、算数学習への意欲向上と、課題解決力、表現力等の育成に引き続いて取り組みを重ねていきたい。